

もりがさきこうせんげんせんひ
森ヶ崎鉱泉源泉碑

区指定文化財（有形・金石文）

昭和49年（1974）2月2日指定

所在地：大森寺 大森南5-1-2

交通アクセス：①大森駅から京急バス〈森26・56 森ヶ崎行〉で「森ヶ崎十字路」下車すぐ

②蒲田駅から京急バス〈蒲36 森ヶ崎行〉で「森ヶ崎十字路」下車すぐ

公開の有無：公開（大森寺境内）



かつての森ヶ崎海岸は東京近郊の臨海行楽地として有名でした。明治32年（1889）に森ヶ崎鉱泉が発見され、同35年頃に有志により最初の鉱泉旅館「光遊館」が開かれると、次第に来泊者が増え、つづく旅館も次々と建てられました。数年後には森ヶ崎鉱泉街を形成するほどになり、大正期には旅館や料理屋が二十数軒建ち並ぶ繁栄ぶりで、当時活躍した文士や政財界人が多く来遊したといえます。

ところが第二次大戦が激しくなると、この鉱泉街は軍需工場の宿舎に転用され、終戦後は戦災者などの寮となり、次第に衰微していきました。馬込を題材にした作品を多く残した尾崎士郎（1898-1964）も森ヶ崎鉱泉に逗留した文士の一人で、以前の楽しい思い出とともに戦後の変わりようについて書き記しています（『わが青春の町』ほか）。

現在、森ヶ崎周辺でこの地が鉱泉場であったことを伝える遺物は、大森寺境内に建つ「森ヶ崎鉱泉源泉碑」のみとなりました。鉱泉の発見とその効用が認められたことを記念して、明治34年に建てられた石碑です。正面には朝鮮の書家・陸鐘允の筆で泉効をたたえた詩文が刻まれ、背面には180余名に及ぶ建立発起人の名が記録されています。これらの人々は、おそらく鉱泉の開掘に尽力した地元の有力者たちでしょう。静かな境内の一角で、かつての鉱泉街の賑わいが偲ばれます。